

児童発達支援 事業所における自己評価結果（公表）

公表： 2022 年 2 月 5 日

事業所名 こどもサポート教室「きらり」高松伏石校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	0	4	怪我が起こらないようにクッションをかませる。	校舎内に柱があり動線が限られるので使用しにくい状態である。
	②	職員の配置数は適切である	4	0	職員の配置などを工夫しできるだけ対応できる職員を確保する。	決して多いとは言えない状況である。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	0	フロアマット、パーテーションなどで場所をわかりやすくしている。	校舎が狭いため、身近に様々なものがあり注意がしやすい。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	2	2	狭い校舎を工夫して分割し、視覚的にわかりやすいようにしている。	日々の清掃や清潔さを保てるように道具などの工夫も行う。
業務改善	⑤	業務改善を進めるための PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	4	0	日々のミーティングを行い確認している。	今後も業務改善や目標を決める場を設け、話し合っていく。
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	4	0	アンケートを定期的に行い、利用者の意見を取り入れている。	業務改善につながるよう今後も継続して取り組んでいく。
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1	3	年間で定期的に公開し、周知している。	認知度は低いので、周知の方法を工夫する必要がある。
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	2	外部評価は行っていない。	事業所内部でミーティング等を行なうとともに、相談支援事業所と連携や情報交換を行うことで、改善に取り組んでいく。
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	0	毎月定例の全員参加の研修を行っているほか、有志による不定期の研修の機会があり、職	今後も継続的に社内の研修を続けていくとともに、各職員に十分な研修の機会を保障していく。

					員も積極的に参加している。	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4	0	定期的にケース会議を職員全員参加で行い、アセスメントシートやモニタリングを更新したうえで、支援計画を作成している。	今後も定期的にケース会議を行い、職員全員で支援計画を作成していく。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	0	事業所内で標準化しているアセスメントシートを活用している。	今後も事業所内で標準化しているアセスメントシートを活用していく。
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	0	ガイドラインに則り、担当指導員と児発管が会議を行い、立案と計画を行っている。	担当指導員と児発管が会議を行い、立案と計画を行っていく。
	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4	0	定期的に職員全体で会議を開き、児童にあった支援計画を練り、それに従って支援を実施している。	利用者に合わせて支援計画に則った支援を考え、児発管と常に相談し、支援を行っていく。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	0	担当制を廃止し、どの指導員でも柔軟に対応できるようにミーティングや支援の合間の時間を縫って日々報告・連絡・相談している。	今後も職員同士での相談を密にし、どの指導員でも柔軟に対応できるように日々、ミーティングを行っていく。
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	0	ケース会議等を通して、各自の支援を見直して、日々工夫を凝らして行っている。	利用者の状況に応じて固定化や見直しを心掛けていく。
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	4	0	遠隔支援を導入し、積極的に利用を保護者に推進している。	コロナ感染予防での3密を避けることも鑑みて、今後も個別支援（遠隔支援）を進めていく。

関係機関や保護者との連携	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	0	毎日定期的にミーティングの時間を設け、確認を行っている。変更等あれば、その都度全員に周知している。	今後も続けていく。
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	1	3	振り返りの場としては設けていないが、翌日のミーティングなどで相談する機会を設けている。	その日の気づきや連絡事項等があれば、社のネットシステム等を用い、職員間で共有している。
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	1	できる限り支援後すぐに記録に残すことを心掛けている。が、スケジュールが詰まっている場合は、出席表の隅やメモ用紙等に箇条書きでメモを残すようにしている。	毎月職員間で調査を行い、支援記録の不備がないかの確かめを行っている。
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4	0	保護者とのモニタリングを定期的に行い、支援の見直しを行っている。	モニタリングが必要な時期を職員間で調査管理し、全員が目に付くところで期間の把握を行っている。
	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	1	児発菅及び担当指導員が参加するようにし、担当指導員が参加できない場合は情報共有を行っている。	今後も担当指導員ができるだけ参加し、行われた会議の内容は全職員で情報を共有することを続けていく。
	㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	0	相談支援員との連携は随時とっているが、児を取り巻く関係者は限られている。	児を取り巻く環境に応じて必要な関係機関と随時連携をとっていく。
	㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	4	0	現在、該当者がいない。	児を取り巻く環境に応じて必要な関係機関と随時連携をとっていく。

②4	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	4	0	現在、該当者がいない。	児を取り巻く環境に 応じて 必要な関係機 関と随時連 携をとっ ていく。
②5	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	0	コロナの感染症予防やスケジュールの都合上、直接の訪問が厳しい場合は、電話での情報共有を行っている。	今後も直接の訪問が 厳しい場合は、電話で の情報共有を行ってい く。
②6	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	0	保護者からの要請を受けて、事業所として担当者が学校等に訪問し、関係機関連携を行い、結果を保護者に連絡している。	今後も保護者からの 依頼があった場合に 関係機関と連携を行っ ていく。
②7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	2	専門機関との連携は十分とは言えないが、相談支援事業所とは保護者等や利用者から得られた情報を共有し、書面や電話を通じて話し合う機会を設けている。	専門機関との連携を とるためにまず、専門 機関と連絡を取り、必 要に応じた情報共有を 行い、研修に参加して いく。
②8	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	4	現在は行っていない。	児を取り巻く環境に 応じて必要な関係機 関と随時連携をとって いく。
②9	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0	4	協議会への参加は行っていないが、保護者との情報で必要なことは常に相談支援員と書面を交えて情報交換を行い、必要に応じて学校などの関係機関と連携を行っている。	児を取り巻く環境に 応じて必要な関係機 関と随時連携をとって いく。
③0	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	0	支援後に振り返りの時間を常に設け、活動についての報告や情報交換を行っている。	今後も家庭との情報 共有の時間を確保し、 活動の振り返り等を行 っていく。

保護者への説明責任等	③①	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	0	4	家族支援プログラム等を行っていない。	職員の研修等を通じて、今後の実施にむけて情報交換や学習を行っていく。
	③②	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	0	事業所内に掲示を行い、利用者負担についての書類、利用明細は毎月利用者に手渡しし、お知らせと説明を行っている。	今後も丁寧な説明を心がけ、情報の共有を続けていく。
	③③	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4	0	更新のたびにモニタリングを行い、利用者に説明を行い、認証と承認印をいただいている。	今後も丁寧な説明を心がけ、情報の共有を続けていく。
	③④	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	0	利用者に支援後に振り返りをする中で、日々の悩みを聞き、支援に生かすとともに、相談支援員とも連絡を取り、情報交換を行い、できる限り助言や支援を行うように努めている。	今後も丁寧な説明を心がけ、情報の共有を続け、できる限り助言や支援を行うように努めていく。
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	4	現在は行っていない。	今後は「ママカフェ」イベントなどを企画し、利用者同士委で話し合える場所を提供できるように考えていく。
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0	保護者と支援後に活動の振り返りを常に行い、その場で受けた相談は職員で情報共有し、適宜必要な機関等へ連絡を取り、行動している。	今後も丁寧な説明を心がけ、情報の共有を続けていく。
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	0	ホームページ、ブログ、インスタグラムなど情報発信ツールを活用して	今後も様々な媒体をできるだけ利用し、丁寧な説明を心がけ、情

非常時等の対応					定期的に発信を行っている。	報の共有を続けていく。
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	4	0	個人情報については保管場所に留意し、パスワードやロックをかけ管理している。	今後も個人情報の扱いは厳重に行い、管理を徹底していく。
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	0	フロアマットの設置や必要な設備の再配置を行い、利用者に快適に過ごしてもらえる環境づくりに常に配慮し、工夫している。	今後も設備の配置の見直しや、再配置を行いながら、快適に過ごしてもらえる環境づくりに常に配慮し、工夫していく。
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	4	現在は行っていない。	今後イベントを開催する際に周辺への周知を行い、事業所への理解・関心を深めていく。
	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	0	教室内に掲示している。避難訓練は毎月職員全員で実施し、常に避難経路の確認、対応の仕方の確認を行い、感染予防の研修は毎年行われている。	今後も毎月の避難訓練を継続して行っていく。
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	0	毎月防災会議を行い、防災訓練予定を教室内に掲示している。会議では毎月テーマに沿った避難会議が開かれ、経路の確認、対応の仕方の確認等を行っている。	今後も毎月の避難訓練を継続して行っていく。
	④⑬	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4	0	保護者や相談支援員から周知された利用者に対しては職員全員で情報を共有している。	今後も利用者の状況に応じて適宜情報共有を行っていく。

④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	2	2	食物の提供サービスは行っていない。	今後も食物の提供サービスを行う予定はないが、アレルギーの有無などは確認していく。
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	0	書類の提出が職員全員の義務となっており、毎月事業所内で確認と対策を行っている。	今後も継続して行っていく。
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	0	毎年定期的に虐待防止研修を開催し、全職員が参加している。	今後も継続して行っていく。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	0	契約時に身体拘束についての説明を行い、署名捺印をいただいている。	今後も継続して行っていく。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。

児童発達支援 保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

公表：2022 年 2 月 5 日

事業所名：こどもサポート教室「きらり」高松伏石 校

保護者等数（児童数）： 6 回収数： 8 割合：

83 %

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	①	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	5	0	0	0		
	②	職員の配置数や専門性は適切であるか	3	2	0	0		
	③	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	3	2	0	0		
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	5	0	0	0		
適切な支援の提供	⑤	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	4	0	1	0	先生がいろいろ工夫して内容を考えて下さり、とてもありがたいです。	ありがとうございます。ミーティングなどで支援の工夫を話し合い今後も精進してまいります。
	⑥	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	1	2	1	1		
	⑦	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	4	1	0	0		
	⑧	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	4	1	0	0		
	⑨	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	2	2	0	1		
保護者への	⑩	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	5	0	0	0		
	⑪	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基	2	1	1	1		

説明等		づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか						
	⑫	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われているか	2	1	0	2		
	⑬	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	4	1	0	0		
	⑭	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	4	1	0	0		
	⑮	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	3	0	0	2		
	⑯	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	4	1	0	0		
	⑰	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	3	2	0	0		
	⑱	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	2	1	0	2		
	⑲	個人情報の取扱いに十分注意されているか	4	1	0	0		
非常時等の対応	⑳	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	4	1	0	0		
	㉑	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	1	2	1	1		
満足度	㉒	子どもは通所を楽しみにしているか	4	1	0	0		
	㉓	事業所の支援に満足しているか	4	1	0	0		

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。